

日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会
(第26期・第7回) 議事要旨

1. 日時 令和7年9月9日(火) 10:00~12:00
2. 会場 日本学術会議5-A会議室(1) およびオンライン(Zoom)
3. 出席委員 新井 充 小野 恭子 川原 志郎 岸田 伸幸 古崎 新太郎
宮崎 恵子 山内 博 山口 芳裕 横田 真 (50音順)
4. 議事要旨

定刻に小野委員長が議長となって開会を宣し、定足数の充足を確認して議事に入った。

1) 前回議事要旨の確認

小野委員長は前回議事要旨(資料1)の確認を求め、一同異議無く了承した。

2) 中村昌允先生話題提供「遺棄化学兵器処理事業と今後の課題」

前内閣府遺棄化学兵器処理担当室参与中村昌允元東京工業大学教授がスライド(資料2)を用い「遺棄化学兵器処理事業と今後の課題」と題して話題提供し、質疑応答が行われた。

3) 意思の表出申出書修正の件

小野委員長は前回委員会で承認を得て提出した意思の表出申出書について、作成および査読日程を勘案し、委員長権限で表出時期を2026年3月に修正したことを、申出書最終版(資料3)を示して説明し、出席委員は全員一致で了承した。

4) 今期意見表出文書の編纂について

小野委員長は当委員会の意思の表出申出書の提出を受け1カ月程度以内に科学的助言等対応委員会から助言書が交付される予定であること、そして、同助言書の内容を意思表出文書原稿に反映させるべきであることを述べた。そして、岸田幹事による一連の今期意思表出文書原稿(資料4、5-1、5-1a、5-2)の説明の後、質疑を求めた。

山内委員) ヒ素の健康影響に係る問題を付録向けに書くので間違いなく採録して欲しい。
ヒ素の長期的な健康影響には現在の労災制度等では不安が残り、別途の措置が望まれる。
新井副委員長) 7(1)②と7(2)の表現に誤解が懸念される部分があるので見直して欲しい。
また、過去の事例や使われなくなった専門用語などは一般向に平易に解説しておくが良い。

宮崎委員）科学的助言等対応委員会の助言書は具体的内容や細かな文書表現よりは日本学術会議意思表出文書としての建付けや設えに関する指摘が主になる。それを経て他分野の専門家も加わって査読が行われ様々な意見が出るだろう。来年3月目標だが早目に進めて欲しい。

小野委員長）他と比べ当委員会の原稿作成は進んでおり査読の繁忙期を回避できると良い。

山内委員）付録の執筆に関し仕様を示して欲しい。これまでの意思表出文書では、現場の処理作業従事者の労働衛生に関し書いてあるが、事業が終わり引退した後の長期的健康管理も書いておく必要がある。分量や本文との繋がりに係る指針が欲しい。今回の中村先生話題提供で気付いた、且つ当委員会がこれ迄看過していた論点なので、書く必要がある。

小野委員長）その点について本文でも言及し山内委員が作成する付録に繋がるようにする。目次に項目を追加することも十分可能な時期なので、宜しくお願いしたい。

5）その他

今後の委員会議事要旨作成方針について一同協議した結果、従来、議事要旨は詳細な版を公表してきたが、今後は簡潔な公表版と備忘用の内部向詳細版を作成することで合意した。

委員長は、次回の委員会を、助言書交付が見込まれる後の11月中に開催したい旨を述べ、幹事に日程調整を指示した。

議長は、全ての議事が終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上